

聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール

聖母の小さな学校

2019年

6月1日発行

第203号

今の自分を一步すすめてみよう！

緑色濃く、夏草の茂る頃となりました。平素は聖母の小さな学校の教育にひとかたならぬご理解、ご協力をいただき、深く感謝いたします。

先月の学校通信に「不登校の状態にある子どもたちが自分の属していた共同体に橋を架け、もう一度活動を始めようとするために、私たち大人はまず、子どもたちの現実を理解する（心で感じ分かる）こと」と書きました。そこで今回は、「橋を架ける」ということを考えてみたいと思います。

「橋を架ける」＝社会に、他者に、父や母、家族に、仲間に橋を架けるのが難しい時代になっています。皆、忙しく、時間がないにもかかわらず、私たちはあらゆる情報にさらされ、振り回され、スマホを見る時間のみが生活の中で増えてゆきます。スマホを見るのが、今やストレスの解消にさえなっている。本当は、ストレスを増幅しているのですが…。そのような社会の中で、もう一度、丁寧に「橋を架ける」事をしてみたいと思います。

ある生徒が作文にこう書いていました。「聖母に入学し、いろいろ学んだことがある。その中で、『自分を見つめる』というのがある。自分を見つめるなんて、今までしたことないし、初めはどうしていいかわからなかったけど、教えてもらうようにしていると、だんだんやり方が分かってきた。そして、自分を見ることができるようになると、次に見えてきたのが自分の課題だった。課題と言っても、ごく普通の当たり前の事で、『朝、起きる』とか『おはよう、と言う』とか『家の手伝いをする』とかいうものだった。それをしていると、親も分かるようで、ほめてくれたりして、うれしかった」。親は親で、「どうしたら子どもが学校に行ってくれるようになるか。こんなことをしたら、ますます行かなくなるのではないか。そればかりで、腫物に触るような感じだった」と言っていました。子どもが自分自身に「橋を架け」たのです。そして、親も子どもに「橋を架ける」ことができた。同時に、親も自分自身に「橋を架ける」ことができた。「橋を架ける」ということは、こういうことではないかと思えます。「橋を架ける」ことにより、喜びを感じることができるし、「1人でいい」「人に関わりを持ちたくない」ではなく、面倒だけれど、橋を架けてみようと思えます。聖母はそのような教育をしてゆきます。これは、舞鶴市教育委員会教育長が本校で3月の卒業式の折の祝辞で「聖母で学ぶ皆さんは、新たな自分、本当の自分を見つけ出すことができる」とエールを送っていただいた、そのことに通じます。



5/26「五月祭」司教訪問の辞

今月もよろしくお願ひいたします。

<今月の主な行事>

10日(月)・17(月) 茶道教室
11日(火)・25(火) 中国語教室
12日(水)・26(水) ギター教室
14日(金) 月例保護者会 19:30～

19日(水) 釣り大会
20日(木) 華道教室
22日(土) 親子行事「草刈り」